

春は届く 明日を越えて

タイトルの写真：あきる野市提供

令和4年春季号 発行者／網代和夫 編集／あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会

令和3年度事業活動状況

あきる野市町内会・自治会連合会

会長 網代和夫



昨年度来から今年度にかけてもコロナ禍で終始してしまいました。町内会・自治会活動も思ったような活動ができなかったと思いますが、連合会もしかり事業計画半ばの状況を余儀なくされました。

とはいっても、ここ数年来低迷している町内会・自治会加入率の回復を図るため、次のような取り組みを実施しました。

まずは、会報の年4回刊行、新たに一つ目としては、現会員への理解促進、未加入者の加入促進ツールとしての小冊子「町内会・自治会あ・れ・こ・れ」を配布、二つ目として、町内会・自治会活動へのヒント・提言となりうる各地区代表者による意見交換会で交わされた意見を「実施結果」としてまとめた冊子の作成、三つ目として、令和元年度から3年度にかけて行政と「今後のあきる野市町内会・自治会を考える協議会」を立ち上げ、その協議結果を「活動報告書」としてまとめました。

また、市民の皆様は町内会・自治会をより身近にすべく「コミュニティスタンド」(仮称)を市役所本庁舎、五日市出張所に設置することを市と合意し、来年度早々お目見えすることとなりましたことなど、一定の成果を上げたものと確信しています。

いずれにしても市民・商店・事業所等が連携連帯をより強固にし、活気溢れるあきる野市にすることは、町内会・自治会の願いであり且つ使命であると考えます。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

小池都知事に秋川左岸遊歩道整備工事に関する要望書を手渡しました

東秋留地区 副代表 浅川 順 夫 (秋留台自治会)

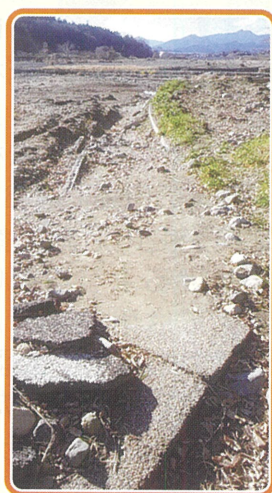
令和4年1月21日、東秋留地区(13町内会・自治会で構成)では小池都知事に面会し、秋川左岸遊歩道整備工事に関する早期着手の要望を行いました。



令和元年台風19号により、東秋留地区の秋川左岸の遊歩道が壊滅的被害を受けました。当地区の町内会・自治会長会では、当遊歩道よりも緊急箇所への復旧が優先と考え積極的な運動を控えていましたが、コロナ禍でも憩いの場である遊歩道で秋川の自然を楽しみながら散歩

をしたいという強い要望が会員から出てきました。そのため、当地区の会員に署名を募ったところ5,338名もの署名があり、関係者のご配慮もあって、知事との面会が実現しました。

面会当日は、都庁の知事面会室にて東秋留地区代表の小山小川町内会長の他、松下野辺町内会長、石関大塚自治会長、柳澤平沢町内会長、浅川秋留台自治会長、関係都議会議員が同席し、緊張の中、要望書を渡し説明をしました。知事からは「来年度、予算化します。」との回答をいただきました。



余 瀝

新型コロナウイルス感染症から3年目を迎えました。次々と変異しグローバルに猛威を振るっています。いつ収束するともしれません。自然の脅威を骨の髄まで知らされるとともに人の命の儚さを知らされた日々でした。▼そこで思い出したのはドイツの哲学者のヘーゲルの「物事を一面から見ればダメで、必ず反対の立場からも見る。その上で両方の見え方を統合して全体を見晴らす。」という言葉です。人の命を救い経済活動を活性化することの重要性とともに、コロナ禍をもたらした人間の営みの負の側面を明らかにし、自然と人間の関係のあるべき姿をこの世のあらゆる生き物との共存の観点からもう一度模索する必要があります。▼これは人間関係でも自分と違う立場や考えを持つ他者の感情や経験を想像する知的能力であるエンパシーの大切さと重なります。自分の考えと相いれない他者との交流や対話を避ける傾向が一般ですが、仲間内の対話や活動も楽しく大切ですが、違う立場の方との対話や討論は精神的にきついですが自分の成長や組織の発展のために必要不可欠です。▼町内会・自治会活動も同様だと思います。地域活性化の力を握るのは「よそ者、若者、ばか者」と言われます。永年地域を支えリードしてきた方、長い間町内会役員だった方、現役員の方、そついった方々の中に異質のよそ者、若者、ばか者が入ることによって、違った観点からの意見やアイデアが出て議論が活発になり町内会・自治会活動も年間行事も活性化し発展してゆくものなのでしょう。

自治会館が新しくなりました

☆資源ごみを集めて会館が建ちました！！

富士見台自治会 自治会長 石原 繪哩子

6年前の第30号連合会会報で、私は「資源ごみを集めて会館を建てます」と宣言させていただきました。誰もが本気にしていなかったことを有言実行。そして、皆様のご協力の下、毎月の資源回収と有志による野菜の栽培・販売により、寄付を募ることなく、8年間で2,170万円の資金をつくることができ、土地購入と新会館の建設に充てることができました。

旧会館の解体も、会員の皆さんで行い、良い思い出として刻まれています。新会館は、多くの皆様が集える会館として、さまざまな設備が整っており、映画祭やカラオケ大会等、会員の皆さんに楽しんでいただけるような企画を行っていきます。

富士見台自治会は、「みんなでワクワク、元気に、ハッピーに！」を合言葉に、日本一仲の良い自治会に発展を続けています。



芋煮会・長寿を祝う会

大塚自治会長 石 関 京 子

毎年行われている芋煮会は、一昨年はコロナウィルスの影響で開催できませんでした。昨年は10月に宣言が解除されましたが、まだまだ安心とはいえません。小規模でも開催できないかと思い、時期を1か月遅らせ、内容を変更して行いました。



お楽しみ会は、その場での飲食を中止。自宅で食べられるように防災用のアルファ化米弁当を準備したり、例年にぎわっている抽選会も三密を避けるため、すぐに結果がわかる三角クジに抽選方法を変更しました。当日は三密にならないように人の流れを作り、会話に注意いただきました。それでも皆様、当たるか当たらないか、いつもと違うクジにワクワク楽しまれていたように感じました。

長寿の皆様にはお祝いのお品をお渡しし、これからも元気に自治会の活動に参加・協力いただけるようお願いしました。盛大には出来ませんでした。会場のもくせい公園までお散歩気分でご参加いただき、少しは楽しんでいただけたかと思えます。久しぶりに外に出た、元気だった、と笑って話をしている会員さんの姿を見て、行事を通して少しは皆さんの気持ちが明るくなったかなと思います。来年はたくさんの笑い声が聞ける活動がひとつでも多くできることを願っています。



組長主催によるイベントの紹介

留原自治会長 荒 井 實

留原自治会では、毎年10月に組長主催によるイベントを開催しております。このイベントは子供からお年寄りまで全ての自治会員が参加でき多くの参加を目的に趣向をこらして行っております。



それでは、実際に行っているイベントについてご紹介致します。



組長の任期は1年で、改選時期になった4月に組長さんに集合をして頂き、イベント実行委員を選出し、その実行委員等でその年のイベント内容を決めて頂きます。

具体的な内容は、午前中はバンド演奏やJA女性部の方々による踊りや手品・ダンスなどの企画を計画しています。また、メインイベントは実行委員が企画したもので、その年によって変わります。

令和元年の例では、五日市物語の上映や留原の懐かしい写真展（昭和30年代～40年代）を開催し、皆様の好評を博すことができました。引き続き午後の部に入り、会館で食事をしながらの懇親会やお楽しみ抽選会を用意しています。

食事は模擬店で、留原で収穫した食材を使用し、焼きそば、アユの塩焼き、芋煮等、と各種飲み物を用意し、楽しいひと時を過ごします。最後はお楽しみ抽選会を行います。景品の内容に関係なく毎年大変盛り上がりしています。



最後に、子供からお年寄りまで全てが参加できる活動は、多くの参加者が期待でき、地域の連帯感や活性化にも繋がり、ぜひ各自治会の皆様にもお勧めいたします。

編集後記

令和2年度から会報の編集を担当させて頂き、アツという間に2年が経過しました。この間、皆様のご協力により7回（第41号～47号）発行することができました。又、編集に際して心がけたのは第一に『親しまれ、読んでも頂ける』紙面づくり、第二に掲載記事の地域的偏重を避けることでした。

この間、様々なテーマで寄稿頂き掲載した記事は連合会関係14件、町内会・自治会、地区関係は19件、余瀝が7件、編集後記7件の掲載でした。

掲載された記事は、各町内会・自治会が其々の歴史や環境を踏まえ創意工夫を凝らした活動ノウハウを紹介させて頂きました。皆様のご感想は如何だったでしょうか。今号（第47号）の発行をもって、現広報部会メンバーの任期は満了します。ご多忙の中、加えてコロナ禍での寄稿や校正、納品、仕分け、配布作業等にご協力頂きましたすべての皆様に改めてこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

- | | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|-----------|-----------|
| 部員 | 部員 | 部員 | 部員 | 副部長 | 広報部長 |
| 佐藤 富治 | 石 関 京子 | 橋 本 勉 | 栗 原 久敏 | 柴 原 光雄 | 遠 藤 利幸 |
| (西ヶ谷戸町内会) | (大塚自治会) | (天上自治会) | (上町自治会) | (戸倉西部自治会) | (油平本町町内会) |